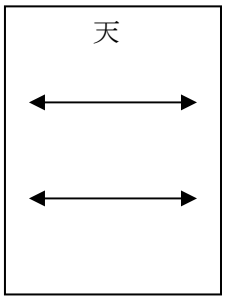
製本のススメ　Vol. 34

カレンダーの残りは1枚となりました。今年は御用納めが金曜日で、銀行も役所も一斉にお休みで、しかも22日から3連休となりますね。つまり年内は20日までには自分の担当は終わらせるぞー！と言う勢いで臨むくらいがちょうど良いようです。

今回も製本用語(基本)のお話

メモや便箋など糊で固められている物があります。これらは1枚づつ剥がして使用されるもので、無線綴じの様に剥がれない作り方ではありません。ここで良く使われるのが**【天のり】**という用語です。言葉の通り天（上）を糊で固めるわけです。そこへ裏表紙とオモテ表紙を1枚づつ付けて、製本テープで巻きます。
よく似た物で**【天くるみ】**と言う方法があります。これは便箋のように、裏から表紙をぐるっと前へ回して持ってくる方法です。ここで**間違えやすいのは「天くるみ」であっても中身は「天のり」になっている**ので、口頭で説明や発注の際に【天のり】と表現してしまう場合が多く、作る際に納期遅れなどの問題に繋がります。
また【天くるみ】の中でも表紙が裏とオモテで違う場合（裏が板紙等）には、まず表紙を採寸後、貼り合わせるという加工が加わり、うっかりと「天のり」などと発注してしまうと、もぅどうにもなりません。
＊付け加え＊ くるみ製本は「無線綴」でも「天くるみ」であっても一冊ごとの採寸が重要で、表紙の加工も（折・筋入れ・貼込み）有り**天のり製本より費用も時間も多くかかり**印刷においても、シッカリとした針・クワエが要求されますし中身が印刷無しであっても（メモのように白紙のみ）紙目は合わせておかないと、絶対に綺麗な仕上がりにはなりません。
この場合の紙目は、天に糊が付きますので、横目であることが基本です（紙目は常に綴側と平行であることが大切ですね）
販促品に多く使われるメモであっても、気を抜けないのがこの製本様式なのです。



Teabreak

秋と言えばサンマですが、この時期サバも脂が乗って格別です。でも少々生臭いのが難ですね。これは皮部分のアミン酸という成分だそうですが、水に溶ける性質があるので、洗い流してしまえばＯＫです。煮る際には切り身の皮を上にしてお湯で十分に洗い流してから、焼く際には皮の上から強めに塩をふりましょう。サンマに勝る美味しさです！　え？アレルギーがある？！それは残念ですね、人生諦めも肝心です。

by（株）井関製本